



第33回はってん祭 大盛況! ~たくさんの応援ありがとうございました~

10月16日、晴れ渡る秋空のもと、たくさんのお客様をお迎えして、第33回はってん祭を開催しました。ステージ発表は中学部全員による「ICB28」のダンス! 本家AKBに勝るとも劣らないパフォーマンスで始まり、小学部のダンス、オペレッタで会場内が温かい雰囲気になっていきました。学部学年の練習を重ねたステージ発表に、お客様からも大きな拍手をいただきました。そして、ステージ発表の「とり」を飾ったのは、高等部3年生。朗読にボディパーカッション、ダンスと多彩なステージを展開してくれました。高等部生活最後の仕上げに、関わる全ての人たちに向けた「感謝」の言葉は、会場にいた全ての方の心に響いたことと思います。

また、中学部、高等部の作業班販売学習にも多くのお客様に来ていただきました。中には、これを目当てに来てくださる「常連さん」もおられ、「これを買いに来たよ」「楽しみにしてたよ」と言葉をかけていただきました。生徒たちもお客様とのふれあいの中で、充実感や達成感を味わうことができていました。

子どもたち全てが、充実した一日を送ることができたことと思います。ご協力いただいた全ての方に「感謝」いたします。



(山副)

「性教育講演会」~命の尊さを学びました~

高等部では、助産師の門田久代さん(命の教育で県内の学校で活躍されています)を迎え、命の誕生について学びました。門田さんは、「今朝、新しい生命がお母さんのお腹から生れるのを、この手でそっと受け止め、お母さんに手渡しました♪♪」と初めに語られました。その時のお母さんやお父さんの喜びと、頑張っておなかから出てきた赤ちゃんの様子を、映像を見せながら語られるのを、生徒は食い入るように聞いていました。

今回は命の誕生というテーマでしたので、主に女性の生理の成り立ちと生命誕生の過程を学び、だれもが愛されて生れ育てられてきたという話に、笑みがあふれていました。

最後に、「赤ちゃんを抱きたい人!」と言われ、前に出て新生児の人形をやさしく抱いてあやす様子は、門田さんの話をよく聞いて赤ちゃんがかわいいと本当に思った姿だと感じました。

今後も生徒たちに命の誕生をとおして、自分を大切に、また周りの人を思いやる心を積み上げていくよう性教育を実践したいと思います。

*ちなみに、中学部3年生は担任と養護教諭で思春期の体と心の成長・命の誕生を3日間通して学びました。妊婦体験で、席を譲るなどの気持ちが育ちました。

(田代)



ウキウキわくわくの社会見学旅行 ~小学部~

10月28日、小学部は佐世保市の水族館「海きらら」に行きました。大きなバスに乗ってのお出掛けが嬉しく、行きは、ウキウキわくわくおしゃべりも弾みました。

海きららでは、海亀やイルカの大きさにびっくりしながら見ている子、イルカたちの遊ぶ姿を興味深く見ている子、ベンチに座りながら歓声を上げてイルカをじっと見つめる子など一番人気はやはりイルカだったようです。みんなにここにきて見せていました。中には、職員のデジカメを借りて夢中で撮影する子もいました。他にも、たくさん魚やきらきらかのきれいなクラゲを見たりとても楽しそうでした。タッチプールで普段は触ることの少ないヒトデやヤドカリを触って遊ぶ子もいました。

子ども達にとって昼食もまた大きな楽しみでした。アンパンマンやカレーパンマンなどを形どったかわいいお弁当に目を輝かせて食べていました。

帰りのバスでは今日見た魚たちの夢を見ながら?熟睡する姿が見られました。きっと心に残る一日になったと思います。

(宮司)



就業体験&校内作業頑張りました。

はってん祭が終わり、中学部は将来の働く生活を目指し、3年生は就業体験、1・2年生は校内作業(10/24~11/4)を行いました。3年生の就業体験先は「いまりの里」「いろえんぴつ」「ちゅうりっぷのうた」「いぶき村」「椿作業所」の5カ所でした。それぞれの体験先で実際に仕事をして、働くことの厳しさ、楽しさを学ぶことができました。3年生はひとまわり大きくなって帰ってきたような気がします。



【袋解体作業】



【ジャガイモの皮むき】

また、1年生は畑の土ふるい作業を最後まで頑張り、荒れた畑を見事に再生しました。2年生は中学部で初めて取り組んだ袋解体作業に挑戦しました。毎日毎日黙々と取り組み自分の役割を果たし、目標の作業量をクリアすることができました。どの学年もまさしく体をつかった体験を経験することができました。最後には楽しみにしていた給料をもらい、買い物やレストランでの食事など楽しむことができました。この経験を次の学習に活かしてほしいと思います。ご協力ありがとうございました。(満行)



【みんなで協力した土ふるい】

セルフケア指導に取り組みました (^-^)

寄宿舎では、全体での活動以外に各棟や学部、部屋別にいろいろな活動に取り組んでいます。今回、10月に男子棟で取り組んだ性指導(セルフケア)を紹介します。

寄宿舎での生活で自立心・自立力を向上させるために、自分で気づき、お互いに気づきあい生活していくことが大切だと思います。身だしなみとして髭が伸びたままだったり、寝癖をつけたままだったり、衣服が乱れたままだったりなど、周りに悪い印象を与えないことを自ら気づいてもらうために、セルフケアの指導を行いました。

啓発ビデオを舎指導員で作成し、それを視聴して各部屋毎の生活中で指導していくようにしました。身近な人が画面に映し出されることから、みんな興味関心をもって、真剣な眼差しで視聴し、その日の夜から鏡を見て自分の姿を確認する子や、普段髭剃りを怠る子も翌朝は念入りに髭剃りをしていました。

10月下旬から中学部が、11月には高等部が就業体験を行いました。セルフケアの取り組みで気づき身につけたことを、就業体験でも生かすことが重要で、その成果が発揮できたことと思います。

寄宿舎生活でできるようになったことが、家庭やグループホームなど社会でもできるようになることが大切だと思っています。

卒業後の生活につながる力の育成や生活習慣を寄宿舎でよりよく身につけられるように職員全員で取り組んでいきたいと思っています。



(谷川)

ご意見、ご要望をお待ちしています。

伊万里特別支援学校 相談支援部

〒 848-0023 伊万里市大坪町丙 1 4 2 7 Eメールアドレス edq10044@saga-ed.jp

☎ 0955-23-8554

FAX 0955-20-1005

